

氏名 松木 宣嘉
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 6802 号
学位授与の日付 2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Do Complementary and Alternative Medicine Users Also Use Conventional Medicine? A Repeated Cross-Sectional Study in Japan from 1995 to 2013
(補完代替医療利用者は通常医療も利用するのか？1995 年から 2013 年までの日本における反復横断研究)

論文審査委員 教授 神田秀幸 教授 小川弘子 准教授 久松隆史

学位論文内容の要旨

【緒言】適切な医療を受ける機会の喪失を防ぐため、補完代替医療(CAM)利用者は、医療機関での標準医療を併用することが推奨されている。本研究の目的は、CAM利用者の中で、同じ症状で標準医療を併用する者の割合の変化を継時的に明らかにすることである。

【方法】研究デザインは反復横断研究である。1995年から2013年の間に7回実施された国民生活基礎調査の回答者753,978人のうち、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧・柔道整復を利用した17,707人を対象とした。個人をレベル1、調査年と世代をレベル2とするクロス分類マルチレベルロジスティック回帰モデルを用いたAge-Period-Cohort分析により、標準医療併用のオッズ比と95%信用区間を求めた。

【結果】CAM利用者17,707人のうち、11,567人(65.3%)が女性であった。年齢を説明変数として入力したところ、オッズ比(95%信用区間)は、女性が1.04(1.03-1.04)、男性が1.03(1.02-1.04)であり男女ともに高齢者は標準医療を併用する傾向があった。2003年以降のオッズ比(95%信用区間)は、女性が1.36(0.89-1.99)、男性が1.37(0.94-1.91)であった。

【結語】年齢が上がるにつれて標準医療と併用することが示された。また、2003年以降、標準医療の併用が増加していることが示唆された。

論文審査結果の要旨

適切な医療を受ける機会の喪失を防ぐため、補完代替医療(CAM)利用者は、医療機関での標準医療を併用することが推奨されている。本研究は、補完代替医療利用者の中で、同じ症状で標準医療を併用する者の割合の変化を継時的に明らかにすることを目的とした。

本研究は、研究デザインは反復横断研究とした。1995年から2013年の間に7回実施された国民生活基礎調査回答者のうち、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧・柔道整復を利用した17,707人を対象とした。個人をレベル1、調査年と世代をレベル2とするクロス分類マルチレベルロジスティック回帰モデルを用いたAge-Period-Cohort分析により、標準医療併用のオッズ比と95%信用区間を求めた。

CAM利用者17,707人のうち、11,567人(65.3%)が女性であった。年齢を説明変数として入力したところ、オッズ比(95%信用区間)は、女性が1.04(1.03-1.04)、男性が1.03(1.02-1.04)であり男女ともに高齢者は標準医療を併用する傾向があった。2003年以降のオッズ比(95%信用区間)は、女性が1.36(0.89-1.99)、男性が1.37(0.94-1.91)であった。

委員からは、公的調査の利活用やCAM利用者増加の要因について質問がなされた。厚生労働省に研究計画とともに利用申請を行ったこと、施術者側の要因(養成課程の増加等)や患者側の要因(高齢化、医療リテラシーの向上等)それぞれの回答がなされた。発表は的確で、周辺知識の学習も十分に認められた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。